

埼玉岳連

埼玉岳連報 第10号

発行所 埼玉県山岳連盟
上尾市上1481-51
電話 (0487) 75-1723

発行者 清水 武 甲

編集者 大久保 孟

ご挨拶

埼玉県山岳連盟

会長 清水 武 甲

今年は、全日本登山大会とミニ国体と大きな大会を引受けて岳連の方々に大変御苦労かけてしまいました。

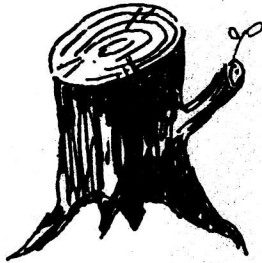
全日本登山大会は地元の大滝村の御好意で大変スムーズに大会を開くことが出来ました。六月中旬は梅雨期でもあり天候を心配しましたが幸い大雨にもならず、十九日には梅雨期には珍らしく青空さえ見えるほどの天気恵れ幸いでした。

参加なさった岳連の方々も、埼玉岳連の受入れ体制に対し好感を持って下さったようであり、会員の皆様の御協力を今更のようになに有難いと思っております。

ミニ国体は八月中旬で例年になく猛烈な暑さの中での大会だったので、選手も御手伝して下さる岳連の人達もさぞ苦しい大会であったと思いましたが、準備段階で相当数の日射病の病人が出ると思配して居りましたが、選手の皆様や岳連や地元の方々の頑張り

最少限に押えることが出来ました。

ミニ国体も地元の小鹿野町の関係者の方々に大変お骨折りを頂きました。全日本登山大会、ミニ国体共大事なく終了出来たのも、地元の方々の援助があつてこそと厚くお礼を申し上げます。また、両大会の当番の責任者である私が体調を崩し大会に参加することも出来ず、役員の方々に迷惑をかけてしまったことを申し訳なく思っております。



第22回全日本登山体育大会を終えて

埼玉県山岳連盟

理事長 田 中文 男

第22回全日本登山体育大会は、埼玉岳連主管のもとに、奥秩父・甲武信岳を中心に6月17日～19日の3日間開催されました。

全国から一九〇名の方々が参加され、大成功でした。運営を委託された私共としても、せっかく全国からお出かけ下さるので、少しでも楽しく山へ登っていただくとうまい苦勞致しました。なにしろ開催日当日になっても正確な参加人員がつかめません。宿舎の問題、車の手配など、あわてっ放しでした。

しかし、競技運営のため、力を貸して下さい下さった地元大滝村、秩父岳連の皆さん、県岳連の役員の方々の協力により、なんとか形を整えることが出来ました。本当に有難うございました。

正直なところ、日山協から正式の依頼があつたのが57年秋のことです。理事会に図りますと、できることならご辞退したいという意見が多かつ

たと思います。しかし、清水会長は、もし、どんな形でも良いというのなら、お引受けしたらと助言があり開催に踏み切りました。

開催してみると、後刻、次々と礼状が全国から参りました。"良かった" "嬉しい山行だった" "楽しかった" "ご苦勞様" などと、さまざまでしたが、これには感激しました。全部で19通もありました。

考えてみますと、色々と文句ばかり申し上げる私に、よくもまあ県岳連の皆さんはお手伝い下さったものと、赤面すると同時に心からお礼申し上げます。ともあれ何かは心がついて通います。チームワーク作りには良い勉強でした。

最後になりましたが、秩父や地元の方々、県岳連の皆さんには大変お世話になりました。厚くお礼申し上げます。

第22回全日本登山体育大会

昭和58年6月17日、19日

奥秩父 甲武信岳・十文字峠

Aコース CL井古田忠男

梅雨時期の中で行なわれた第22回全日本登山体育大会は当日より雨で開幕となる。6月17日は栃本民宿泊、昨日の雨が少し小降りになるが、今日は甲武信小屋泊であり、6時に車で出発する。中津峠を通り、三国峠まで車で入る。峠では登山の注意、連絡等を行い各班とも元気に登山が始まる。約80名の登山者は、原生林の中を長蛇のごとく、十文字小屋に向けて進む。少し調子の悪い人も出たがBコースに編入してもらう事にして、雨の中を行動する。

11時頃、十文字小屋へ着き早い昼食にする。小屋の人に連絡しBコースへ数人変更の連絡をして我々は甲武信へ向う。

大山の近くでは遅れて咲いているシャクナゲが本大会参加者の心をなぐさめるかのよう

三宝山の頂上で全員揃って小休止を取り甲武信岳へ向う。雲も切れ、頂上では大会を歓迎して30度の展望である。但し30分間だけであった。頂上での記念写真などを撮り小屋へ向う。今日の労を取るため各班とも整理体操をして小屋へ入る。

本日の行動報告を栃本の本部へ連絡し、懇親会を開催する。小屋の千島兼一氏の紹介から始まり、山小屋から酒のサービスしてもらい、明日の行動予定を連絡し役員も夕食とする。

6月19日

5時20分山小屋を出発する。笹平、破不山を通り、雁坂嶺で高山植物を見ながら約1時間の休憩を取り、突出峠、雁道場を経由し、ナメリ沢合に出着きマイクロボスで三峰神社での閉会式場へ向う。

今回の山行で千回山行達成、80才でAコースに参加して下

さった方、今年は見られないと思っていたシャクナゲが見られたり、雨にけむる原生林など数多くの思い出があり、特に各都道府県の皆様には、多数ご参加下さいまして本当にありがとうございます。

Bコース CL新井宏司

梅雨の季節にもかかわらず全国から多数の参加者が一同に集り、奥秩父・甲武信岳を主会場に三日間の幕があき、第22回全日本登山体育大会が



十文字峠付近にて

行われた。

第一日の受付の大滝中学校には、小雨が時々まうあいにくの天候であったが、地元の盛沢山の接待でいやがうえにも大会が盛り上がり、特に秩父はよしにおいては、アンコールの盛大な拍手でありました。式の終了後、参加者は用意されたマイクロボスで各民宿へ分散して行った。私達の宿泊メンバは秋田県、滋賀県、静岡県、茨城県、千葉県、東京都の人達と、県内役員16名であった。

懇親会は六時過ぎから始められ、宿の御馳走に舌づつみしながら宿の主人の栃本部落の話から自己紹介ではじまり、全員のかくし芸あり、カラオケ大会もはじまり、楽しい夕食の一時が過ぎ、想い出の話に花が咲き、話はなかなか終わろうとしないが、遠方からの参加、また明朝は早い起床でもあるので早めに床に入った。

第二日目の朝は霧につつまれた溪谷に、小鳥のさえずる声が目覚めた。宿からの望みは傾斜した面に立てられた栃本部落に霧が流れ、山水の美そのままの風景をうつし出してくれた。

朝食には宿の配慮により、キビの入った赤飯が配られ、各県の方々もめずらしい朝食に大変喜んで頂きました。朝もやの立つ宿を後に、配車されたマイクロバスの所まで急な道を登り集合場所に出た。すでにBコースの役員が乗車の準備をしていた。定刻6時30分にバスは栃本を後にして一路三国峠へ向った。車は左右にゆれ曲った道にも、時々の風景あり、車窓からの眺めは大変すばらしい。中双里を過ぎ小一時間程走った所でバスが急にスピードをゆるめた。狭い道でのダンブカーとのすれ違いである。春秋の行楽シーズンの土・日は車も入るが中津の溪谷に、これだけの大部隊で通過することも最近ではめずらしい事である。やつのことで通過してまもなく、休憩所である広い所に出た。

Bコースより30〜40分程前に出発したA隊が休んでいた。彼等も車のすれ違いで相当時間がかかったようである。まもなく出発して行くA隊を見送りB隊も小休憩してから出発する。中津川の部落を過ぎ道路もいよいよ砂利道となり曲った道に、左右にゆれなから8時30分に目的地の三国峠へ到着である。A隊はすでに編成が出来、出発の準備を進めていた。数分後に十文字へ向けて霧の濃い稜線に取付いて行った。早速点呼を行い一班一五班37名、県内役員24人、総数61名の隊が出来上がった。9時である。心配した天候の方も回復の兆候が見られ、明るさを増し、雨具を着ける程でもなかった。天候が良ければ見晴しの良い峠であるが霧につつまれ残念である。いよいよ出発の時が来た。今日の行程は十文字峠までなので比較的楽なコースである。第22回埼玉国体から十数年が過ぎているが、現在もその時の自然のまま残っている。稜線にはいつ頃つけたのかわからない有刺鉄線が赤くさびつき残っていた。おそらく一昔前放牧したときに張られたと思われる。

まもなくして背丈程あるシヤクナゲの林を抜けると悪石の山頂に出た所で一休憩である。このあたりはハクサンシヤクナゲの宝庫である。まだ開花には早かった。梓白岩11時20分着。岩壁では天然の盆栽杜松が私達を迎えてくれた。梓白岩を過ぎると十文字山頂である。霧につつまれた原生林、なんとも云えない美しさを演出してくれた。ここを下れば今日の宿泊地、十文字小屋である。14時少し回った頃無事到着する。A隊も17時過ぎ甲武信小屋へ到着との連絡がとれた。夕食までの短い時間があつたが、いくつもの話の輪が出来、今昔の話に花が咲き時間の過ぎるのもしばし忘れる程であつた。

夕食後、小屋の主人より奥秩父のスライドが上映され、皆さんに大変喜んで頂きました。明朝は予定の出発時間を一時間程早めた。話はつきないが、天候を気にしながら床に就いたのが夜もだいぶん更けていた。4時起床して見ると昨日とは一変して原生林の間からの星空であつた。

ているコースも秩父から信州への交通のただ一つの道でもあつたが、昔ながらの面影が随所に今も残っている。白泰山を過ぎ原生林ともお別れである。いよいよ最後の下りにかかり、杉林に入ると一段と薄暗くなり、足もとには名もわからない花も咲き、新緑とは対照的であつた。12時45分全員無事五坊に着した。待合せのマイクロバスに急ぎ乗車して、栃本部落を後にして、奥秩父湖を右に見ながら一路、閉会式の会場地三峰神社に向つた。天候にも恵まれ、第22回全日本登山体育大会が無事終了した。

おめでとう
ございます！
県岳連の会長をされて
いる清水武甲氏が、この
度（昭和58年秋の叙勲）、
勲五等瑞宝章を受賞され
ました。
12月22日会長の祝賀式
典が秩父市内で盛大に行
われました。

原 稿 募 集 !

記録・紀行・写真・カット・地区岳連の動向等なんでも結構です。
広報部宛お寄せ下さい。

送付先 〒363 桶川市上日出谷940-15
埼玉岳連広報部 大久保 孟 宛

第38回国民体育大会 関東地区大会山岳競技

埼玉県山岳連盟

理事長 田中 文男



国体山岳競技関東地区大会開会式

昭和58年度の第38回国民体育大会関東地区大会の登山競技は、私共埼玉連が運営にあたりました。

国体の登山競技も、得点化がようやく世間に知られるようになり注目浴びております。そのため、できる限り公平に運営しようという事になり、コースは早くから公開致しました。そのため4月ごろから各県の方々が偵察にみえたりもしました。

ご承知のように、二子山系が会場です。小鹿野町には大変お世話になりました。厚くお礼申し上げます。

開催は炎天下の8月です。で、万一に備えなければという事で、救護対策には万全を期しました。通信網を各地に配備し、逃げ道には車を手配しておきました。そのため、少年男子、少年女子のパーティーが歩行不能になったケースもありましたが、救助に全く時間がかりませんでした。57年末から開催月の8月まで何十回となくコース調査を行ったたまものと思いましたが、数多く山に入って下さった県内役員の方々にお礼申し上げます。

が始めて予選を通過し、本番群馬国体への参加権を得ることができました。しかも、本番では第8位となり、皇后杯で3点確保してくれました。来年は山梨です。がんばりたいと思います。

講評

競技部長

武井 正男

し、全コースを歩行時間点内に入れないチームがあった。これは暑さのためばかりではなく、体力・技術などの問題があると思うが各県代表選手は一杯に戦った。

踏査競技は、成年女子は茅の坂コースにて行われ、岩登り競技終了後、ローソク岩基部よりスタート、暑さのため全コースを制限時間内に入れた県は二チームだけであった。少年男・女は観音山コースにて行われ、この日も暑いために棄権チーム又は制限時間内に入るチームが少なく各県の差がだいぶ出た。

以上簡単に各コースの概要を述べたが、今回のミニ国体は真夏の炎天下で行われ、この暑さでは参る選手が多勢出るのではないかと心配していたが、やはり各県ともに体力の差が見られ、これは暑さだけの問題ではなく、日頃のトレーニングが必要だと痛感した。



昭和58年度 事業報告

＊事務 局

- ◆部長会議 58・4・3
1.全日本登山体育大会要項作成
- ◆ミニ国体コース選定会議
- ◆ミニ国体代表者会議
- ◆ミニ国体各コース別責任者決定
- ◆第22回全日本登山体育大会
58・6・17、19
Aコース 栃本一甲武信岳
Bコース 栃本一十文字峠
◆部長会議 58・6・22
◆ミニ国体準備会
- ◆審判員会議(小鹿野町)
58・7・2、3
◆小鹿野町教育委員会と打合せ会議 58・7・5
- ◆県実行委員会開催
58・7・15

◆審判員会議(小鹿野町) 58・7・23 ◆国体関東ブロック大会開催 58・8・5、7 場所 二子山周辺にて 成績

	成年	少年	少年
1	神奈川 女子	栃木 男子	茨城 女子
2	埼玉 山梨	栃木 栃木	
3	茨城 千葉	千葉 千葉	

- ◆本県出場選手
監督 根岸清身
選手 塩谷寿子・佐藤栄美
" 米川琴江
少年男子(狭山ヶ丘高)
監督 桑原哲也
選手 伊井 豊・内田幸雄
" 井戸沼勇
◆理事会 58・9・27
全日本登山大会、ミニ国体報告
◆県体登山大会について
38回国体山岳競技
58・10・16、19(群馬県)
本県出場選手
成年男子
監督 関根 進
選手 松崎 達・会田徳雄
" 森 吉寛
成年女子
監督 根岸清身

選手 塩谷寿子・佐藤栄美 " 佐々木香 尚成年女子は総合で八位に入賞。 ◆県体登山大会 58・10・30 場所 二子山 団体 1位 深谷市 2位 川口市 3位 熊谷市 個人男子 1位 松崎 清 深谷 2位 菊地 秀夫 川口 3位 長島 睦夫 熊谷 個人女子 1位 設楽百合子 深谷 2位 吉岡 弘美 深谷 3位 斎藤 公子 本庄

- ◆理事会 58・12・11
冬山リーダー会議、講演会開催について
桶川市山岳連盟加盟承認について
◆冬山リーダー会議・講演会(講師・斎藤一男氏)開催
58・12・11 スポーツ研修センター
◆積雪期講習会及び指導員検定会(富士山)
59・2・11、12
◆雪洞講習会(谷川岳)
59・3・3、4
事務局長・大野幾雄

＊指導 部

日山協指導員研修会 (氷雪技術) 昭和58年3月19日、21日に かけて、富士山五合目以上で 指導員の研修と検定が実施さ れた。

趣旨は各県の中堅指導員を中心として、指導員の資質の向上と均衡をはかるとともに、公認指導員検定会の検定員の育成ならびに指導要領の研修ということだが、内容は、一日は富士山の登頂、一日は積雪期における確保技術の研修と二種指導員の検定だった。参加者は東北から九州まで50名近く指導員の参加があり、よりあがった。

確保はスタンディングアップ、クシビレーとコンテナスでの大阪方式での確保を常任指導員を中心にグループに分れて研修する。

宮崎県などは地区指導員も参加され、かなり熱心だった。滑落停止技術なども指導教程と少しづつ変わってきていますので、指導員はぜひ参加して下さい。

今年は富士の雪もしまっていて、前夜アイゼンのツメをヤスリでいっていた人が多勢いたのが印象的だった。

雪洞講習会 谷川岳西黒尾根 昭和58年3月5日、6日 例年の事業の一つである雪洞講習会を行なった。

今年は40名近い参加者があった。幸手山岳会、熊谷岳友会、川口岳連等で10名近い会員の参加があり、よりあがった。雪洞は各会ごとに作ってもらった。全体的に大きな雪洞が多く、居住性がよく作られていた。

雪洞よりむしろ翌日の谷川登頂の方が楽しみに参加した人もおり、朝起きて、天気が良いので最高だった。

帰りの列車の時間もあるので、予定時間までの登山だったが、ラッセルに時間がかかり、頂上から30分前という所で下山した。

後続パーティーが私達のラッセルに感謝して登って行った。

次回は各会との交流時間をもっと多く持つよう考えたいと思う。

指導部長・尾熊峰雄



* 遭 対 部

恒例の各山リーダー会議を今年も12月11日上尾市の県立スポーツ研修センターで開催。70名近い方々が参加しました。今年度の講師は山学同志会会長の齊藤一男氏、齊藤先生は日山協副会長で都岳連会長でもあります。

今回も、記念品として埼玉岳連から齊藤先生の「岩と人」の初版定価二八〇〇円を無料で提供しました。

この費用は56年に甲斐駒で遭難された浦和山岳会、あゆむ山の会の家族からカンパがありました。なお当日は、両会を出した本「3人の踏跡」も一冊ずつ参加者にプレゼントしました。

遭対部長・井古田忠男

* 自然保護部

自然保護委員総会

日本山岳協会昭和58年度自然保護総会は、去る昭和58年10月22日、23日の両日にわたり、岐阜岳連が主管となり、岐阜県大野郡白川村大窪に於て、中央・全国20都道府県からの自然保護委員60名が参加して開催されました。

日本山岳協会自然保護委員長・山口善弘氏より挨拶があ

り、続いて岐阜県山岳連盟会長・細喜代和氏より、秘境飛騨白川郷に全国からこのように沢山の参加者が一同に集まり、昭和58年度の日本山岳協会自然保護委員総会を当県にて開催いただけることに相成り、誠に嬉しく光栄に存じます。飛騨白川郷は白山の登山基地であり、巨大な合掌家屋と大家族制度で知られる古い歴史と伝統を秘め、ここに住む里人たちも素朴ながら、人情味の厚さも今も残されております。委員の皆様は全国からお集まり頂きまして、この白川郷の景勝地での自然保護について、御討議下さることは岐阜岳連といまして大変喜んでおります、と挨拶があり、二日間の日程で開催されました。

第一日各県代表発表

(岐阜県) 白山スーパール道昭和51年開通、登山者三万人程度に減少している。

(福島県) 現在スキー場が三ヶ所あるが、さらに三ヶ所検討しているので計画前に阻止して行きたい。

(京都府) 八丁平登山者と平行して大腸菌が増えているので早急に対策をしたい。

(栃木県) 昭和58年10月15

日奥鬼怒スーパール林道開発着手

(秋田県) 春秋林道開発着手

(長野県) 別荘地の開発が非常に多くなっている。

(宮城県) 霧島の乱開発は大規模である。

(兵庫県) 六甲山ドライブーによる空缶が谷に多い。

(日山協) ヒマラヤ登山もゴミの処理又は自然保護についても検討する余地がある。

第二日

(山梨県) レインジャー組織を作り、今年で八年が過ぎ、今年度の予算額四百万円、二人一組で7月1日〜10月31日まで活動、岳連に156名配置されている。

(大阪府) 清掃ハイキング実施。大阪築城四百年まつり協賛、大阪城天守閣屋根のクリーニング五層の屋根および鮎はこの洗浄作業者数が300名、うち女性20名。

(埼玉県) 本年6月秩父岳連では、営林署、警察署が一体となり動植物の盗難防止キャンペーンを実施した。又11月末日には、清掃ハイキングを行う事を報告致しました。会議終了後白山スーパール林道及び合掌の里を見学して無

事終了致しました。

昭和58年度一斉清掃登山を終って

本年度の清掃登山は、11月27日秩父・武甲山を中心に9団体20名他1名により行われました。

西武秩父線横瀬駅前から各車に分乗して生川へ着いたのが9時半を少し回っていた。冷込みが強いのか道端の水たまりも厚い氷が張り詰めていた。

早速信越ポリマーより戴いたポリ袋を各人に配布し、いよいよ清掃の開始である。古い登山道も登山者が少ないのか、マナーが良くなったのかともきれいな表参道である。マス釣り場を過ぎて一段と急な登りにかかり生川との分岐点を過ぎ、薄暗い杉林を抜けるとコースが一部変わってまもなく最後の急登すると山頂である。

神社の両側は非常に汚れていた。何んのために荷上げしたのか、おそらくポッカである。古本が数百キロもありその他ゴミの山であったが、穴を掘ったり消却したり、またたくまにきれいになった。昼食を取ってから、小持山

より大持山、妻坂峠のコースをとった。小持山の山頂では植木ドロに出合った。すでに八潮ツツジが数本抜かれていたため注意をして元の所に植えて来た。

大持山から生川へ着いたのが4時半頃で無事終了することが出来ました。参加して戴いた皆様にお礼を申し上げると共に来年度も計画致しますので多数の参加者の御協力をお願い致します。

自然保護部長・新井宏司

あ と が き

◇58年度も、間もなく終わろうとしております。

全国各地から、若むす原生林の奥秩父に、多くの岳人をお迎えしての全日本登山大会、そして炎天下の中で行われた国体関東ブロック大会等も、各地区岳連のご協力により、無事成功裡に終了する事ができました。

これを機会に今後ますますに県岳連充実の為に、ご支援ご協力下さいますようお願い申し上げます。

(大久保)